

小学六年生

森野 水琴

令和四年三月

今月でわたしたちは卒業します。一年前に六年生になった時、最上級生としての責任感を覚えました。手さぐり状態でリードしてきましたが、下級生にとってたよりがいあったでしょうか。卒業する今になって、下級生のために何も書いていなかったことに気づきました。これでは何年経っても、六年生は手さぐりをくり返すばかりです。

ですから、四月になったら新六年生に月に一度、この本を書き足してほしいのです。わたしたちは四月になったら「中学一年生」という本を書き始めるつもりです。

新一年生には、ひらがなとカタカナだけで、「しようがく いちねんせい」を書いてもらうようすすめるつもりです。かれらが五年後に、この本を書き足してくれることをいっています。

先ばいたちの書き残したのを読み、自分たちで書き足していく。それが続けられたら、どんなに素晴らしいことでしょう。仲良く書き続けていきましょう。

注意 六年生なら、いつでも読むことができるように五年生までに習った漢字で書いてください。

令和四年四月

今月から最上級生になりました。下級生たちの世話をする責任があります。

黄色いぼうしの一年生を見ると、心がなごみます。一年生が平仮名とカタカナで書いたのを読んで、わたしたちも入学したころはそうだったなと、なつかしく思います。せっかく先ばいたちが始めてくれた本を引き続き書いていくつもりです。

令和四年七月

残念ながら本作を完結します。

下級生が進級して書き続けるまで休載します。